

10月

新着本の紹介



書 名	著 者 名	内 容
ギャルにひかれて寺マルシェ	宮島 未奈	亡くなった父親の酒屋を継いだ30歳の英介と腐れ縁の悪友・光司。陵泉寺で開かれている〈寺マルシェ〉を訪れると、ギャルメイクで法話を行う尼僧を見つける。副住職を務める、元同級生の真実子だった。呆気にとられる英介の傍ら、光司は真実子を〈ギャル僧〉として売り出して金儲けすることを思いつきー！？
フィクサー	真山 仁	伊達正義は、スキャンダルをもみ消す「フィクサー」。 政治家やセレブが巻き込まれたトラブルを始末、隠蔽する凄腕だ。 国立競技場でのサッカーの国際試合中に、ロシア人と難民であるユーラシア人との間で乱闘、死傷者が出る。政府の移民政策が問題となる可能性が高いため、外相の斯波から、事件のモミ消しを依頼されるのだが
首都圏炎上	高嶋 哲夫	東京都立川消防署の消防士、宇津木準はなかなか鎮火できない山火事をヘリから睨みながら、「今までの山林火災とは違う」と感じていた。 宇津木の直感に従うように、埼玉、長野、群馬、山梨の各地で山林火災が発生。火災は山々だけでなく市街地を焼きながら東京都心にその火の手を延ばそうとしていた。
志記（二） 瑠璃と玻璃	高田 郁	医を志す蔵源美津と、刀匠を目指して修業中の高越暁は、江戸で初めて出会う。 名匠真達のもとで一人前の刀匠となるべく修業を続けるものの、思うような鋼を鍛えられず、壁にぶつかる暁。 女ゆえに患者から診察を拒まれたり、遅れて入塾した者が優秀だったり、八方塞がりの美津。 そこに海の向こうから、前代未聞の疫病が入って来た
沈黙の患者	南 杏子	「あのまま一人で焼け死んでくれていたら……」 真面目に生きてきた人が、陥穽に落ちる時ー。 「高齢化社会×犯罪未満」をテーマにした傑作心理サスペンス。
アラームが鳴らないうちに	川口俊和	過去に戻れる喫茶店でコーヒーを淹れつづける主人公、数。不思議な力を持つ数の、忘れられない後悔とは？ 「死んだ人に会いに行く人は、ついつい情に流されてしまい、制限時間があることを知っていても、別れを切り出すことができなくなります」 ウエイトレスの想いと、客の後悔が交錯する心温まる四つの奇跡
暗殺の交響曲	中山 七里	大阪梅田で街頭演説をしていた溝呂木久邦党首が刺殺された。犯人は入山和奏二十八歳。 恩人からの依頼によって、しぶしぶ弁護を引き受けたのは悪徳弁護士として知られる御子柴礼司。 大阪地検では、「能面検事」こと不破俊太郎がこの事件を担当することになった。この事件には二人も知らない重大な秘密が隠されていたー！

内定をください オカンと息子の崖っぷち就活	保坂 祐希	「ええねん。泣いても笑っても、これが最後の過保護なんやから」 大学4年生になっても、お家でごろごろゲーム三味の息子。さすがにマズいのでは……と母が気づいた頃には時すでに遅し!ようやく就活を始めたは良いものの、そこから先は苦難の連続。容赦ない“お祈りメール”の嵐に、親子の絆にさえ亀裂が走り!?
パンどろぼうとさすらいラーメン	柴田 ケイコ	とっても寒い“ぶるぶるじま”にやってきたパンどろぼう。できたてのパンをふるまおうとパン作りをはじめますが、窯の扉をあけようとした、その瞬間・・・ ＼＼＼ポフーーン／／／ パンが作れずこまっているところへ さっそうと現れたのは、いったい、誰ーーー？

出版社HPより

【お知らせ】 月刊誌も配架しています。ぜひ、ご利用ください。
 ■NHKテレビテキスト「囲碁講座」「すてきにハンドメイド」
 ■「ESSE」

